

(別紙4(1))

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0370500639		
法人名	特定非営利活動法人 花巻東雲会		
事業所名	グループホームだんけ胡四王(B棟)		
所在地	岩手県花巻市胡四王一丁目15-5		
自己評価作成日	平成24年11月2日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=0370500639-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kihon=true&amp;JizyosyoCd=0370500639-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19番1号岩手県福祉総合相談センター3階
訪問調査日	平成24年11月16日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・立地条件の良さ:新花巻駅前にありながら自然がいっぱい。すぐ近くに熊谷家、賢治記念館、博物館、イーハトーブ館、新花巻駅等の文化圏にあり、外出先となっている。</li> <li>・きめ細かい対応:24時間シートを利用し一人一人に合った介護を実施している。</li> <li>・医療機関との連携:近くの開業医から強力な援助があり受診時、看取りの協力をいただいている。</li> <li>・近隣との関係:毎週、近隣の方々との交流があり、お互いになくならない関係となっている。又、近くの保育園児との交流があり、運動会、入園式、卒園式に参加している。</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>当事業所は、新幹線「新花巻駅」前にあり、周辺には、すぐ前に畑、市文化財の熊谷家旧宅、宮沢賢治記念館等があり、自然や文化的な環境に恵まれた場所に立地している。利用者の安心と尊厳ある生活の支援を理念としており、利用者に関する情報や気づきをセンター方式を活用して共有化し、チームで一人ひとりに合ったケアプランを作成し、質の高いケアの提供に努めている。重度化・看取りについては、医療機関との協力連携が確立されており、職員の経験と研修研鑽によりノウハウが積み上がって来ており、家族等の評判もいいため、今後とも極力要望に応えていく方針である。地域との関りは、ボランティア団体の「金ママ」、絵手紙の会、近くの保育園児等の訪問が定期的に行なわれており、また、地域に交流スペースを開放するなど、地域との交流に積極的に更なる展開が期待される。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日理念を唱和し共有し実践に反映させている。	毎日朝礼で職員が理念を唱和するとともに、掲示板に掲示し、共有化を図っている。優しい言葉、優しい対応など日々のケアの中で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内にある熊谷家の催事等に参加している。又、地域の高齢者に交流スペースを設け利用してもらっている。	高齢者のボランティア団体「金ママ」が毎週金曜に手弁当で、また、絵手紙の会や保育園児も定期的に訪問するなど、利用者とのふれあい交流が日常的に行なわれている。事業所の一角に地域交流スペースを設けており、上記をはじめ地域との各種交流が活発に行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎週金曜日に地域の高齢者が当施設に集まり、利用者との交流を楽しんでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度推進会議を持ち、サービスの実際、評価について話し合い活かしている。	会議は2か月毎に開催され、議題はサービス状況、地域との関係、看取り、苦情処理等広く話し合われている。その結果、委員の皆様には認知症に対する理解を深めてもらったり、外出者の報告サポートに尽力いただく等、成果が出ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市にもパンフレットを置き、サービスの取り組みを積極的に伝えている。日常的な支援の中では行政への相談は殆どないが、市で開催している会議等に参加した折に相談等をし、連携を持っている。	市との関係は、連絡会議や苦情・看取研修会等に参加したり、介護認定更新手続き等の場を捉え協力関係構築に努めている。また、事業所のPRのため、市にパンフレットを置いてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、勉強会を行ったり、研修会に参加し共有し、言葉の拘束についても職場研修している。	事業所として「身体拘束をしない宣言」を宣誓している。職員が研修会に参加、その復命研修を所内で行ない、全員で確認共有化している。否定語は使わない、まず聞く、です・まず使用等言葉の拘束にも留意している。施錠は玄関等を夜間だけ行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング、勉強会で申し送り、徹底している。又、暴言のない丁寧な言葉遣いをしている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時、具体例で研修し、一人一人の権利を守りながら日々の仕事に当たっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に利用者、家族に契約書に沿って説明し、理解、納得頂いた上で署名・捺印してもらっている。又、だんけ便りの発行で外部にも表している。看取りについての説明、納得は、必要となった際に再度確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、運営規定を示して説明し理解、納得頂くように図っている。職員には、採用時に、外部には、運営推進委員会等で説明している。	家族等の意見・要望は、家族の面会時、料金支払い時、毎月の通院時等に聞いている。今年、エアコンの要望があり、居室・リビングに設置を実現した。職員異動(退職含む)は、お便り(H25.3月予定)等でお知らせすると共に、家族会でも報告の予定である。(家族会は、H25/2/24開催予定である。)	利用者、家族等からの意見や要望を聞くために、家族会の再開等、積極的に取り組みを展開しようとしている。お互いに話しやすい雰囲気作りについて職員間で、話し合いを重ねている。是非、引き続き進めていただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている	毎週月曜日のミーティングや勉強会で意見・提案を聴いている。毎日の業務の中でも聴く機会を設け反映させている。	毎週月曜日の職員ミーティング、復命研修や、ケア勉強会等を通じて意見・提言を聞いている。管理者から職員に対しては業務に対する気づきや提案を積極的に出すように話している。今年、エアコン設置、職員の研修派遣、洗濯用の大きなネット購入等について要望があり実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の健康・精神状態が良くなければ良い介護はできないので、そのような面にも配慮しながら業務に従事している。 就業規則を設け労働基準局監修の労働時間の管理、全国の給与水準より低くならないような設定をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・OJTを取り入れ、活用しながら業務にそのまま活かしている。 ・外部の研修の機会を利用し、職員の資質向上を図っている。 ・学習委員を組織し自主的な学習にも力を入れ取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会議や研修会等に参加し、他施設の情報等を参考にしながら、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に本人、家族から生活面・精神面等の不安な点、その他要望等を聴き、職員間で情報を共有し、介護に当たり、本人・家族から信頼されるような関係作りの体制を整えている。 ・業務日誌等によるきめ細かい対応に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、入居時によく話を聞いた上ですすめている。又、家族来訪時には必ず話し合う時間を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のアセスメントを活用し本人、家族から再三見聞し、本人の必要としている支援を見出し、適宜サービス内容を検討し実践している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	活動として、掃除、食事の準備、後片付け、畑仕事等を一緒に行い、関係を深め、共に暮らす利用者同士の意識のもと毎日を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランは3ヶ月毎に作成しているが、面会のため、来訪する家族よりの要望等に耳を傾け参考にし共に支えていく関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会は、常時対応できる様になっている。又、電話や手紙はすぐに対応している。外出の際には、馴染みの場所を利用している。	(利用者の)友人・知人の訪問時には、談話室を提供したり、手紙は、絵手紙にして出す等の支援をしている。また、賢治記念館等文化施設への外出、喫茶店でのコーヒータイム等、これまでの馴染みや、習慣等を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の中で、場面の状況に応じ会話をしやすいテーブルの配置をしている。又、外出の際も仲間意識を考慮し計画を立てている。随時、お互いに支え合えるように配慮・支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年の9月に看取りを行った家庭に出向き、線香を上げ、家族と話、相談に乗り支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時、本人・家族より詳しく希望を聴いている。</li> <li>・日々生活の中で本人の意向について把握に努めている。</li> <li>・3ヶ月毎のケアプラン作成の中で家族より希望を聴いている。</li> </ul>	利用者の思い、意向は、入居時に家族から聞いたり、日々のケアの中から、情報や気づきを把握し、センター方式を活用して、個人毎にファイリングし、職員がいつでもどこでも見れるように共有化している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入居時に本人、家族より詳しく聴き、その事をミーティング等で伝え職員に伝えている。</li> <li>・職員一人一人に生活歴、エピソードを書いて渡し、一人一人の経過の把握に努めている。</li> </ul>		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日就業前にミーティングをし利用者の状態把握に努めている。</li> <li>・24hシートを活用し日中・夜間の状態等も把握するようにしている。</li> </ul>		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月毎にモニタリング、アセスメントを行い、その結果を職員が共有し、家族の面会時に本人の様子を伝え、希望を聴いたり、プランを説明したりしている。	介護計画は、利用者・家族の意見要望を聴取するとともに、職員が日々のケアでの気づきや情報をセンター方式により個別ファイル化し、チームで利用者一人ひとりの状況に即した介護計画を作成している。見直しは3ヶ月毎に行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を業務日誌に記録し、職員間で共有し、実施している。改善すべき事柄については、すぐにミーティングで話し合い確認しながら、見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、日々の生活の中で要望に応じて対応している。(外食、外出、理髪、マッサージ等)		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源として、宮沢賢治記念館、新花巻駅、童話村、博物館、保育園等があり、本人に合った利用の仕方でも暮らしを楽しんでいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・できる限り家族の協力のもとにかかりつけ 医院で受診している。やむを得ない場合に限り、職員が同行している。 ・緊急時には、家族了承のもと協力病院で受診している。	利用者個々のかかりつけ医に行っているが、現在は協力医を「かかりつけ」としている利用者が多い。月1回の受診は、原則、家族が付き添っており、都合がつかない時は、職員が同行している。利用者の生活状況ノートを準備し、医師に情報提供し、それに医師の指示等を書いて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケアマネージャーは看護師も兼務している ので、利用者の観察のポイント等を勉強会を通じて学んでいる。又、普段の健康を観察、記録して利用者個々に管理している。(VS、WT、爪、排泄等)		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院までの状態の記録を病院に提示している。 ・退院にあたっては、医師からのサマリーを参考にこれからの介護に役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきている時点で家族に説明し今後の確認をしている。又、終末期については、入居時に説明した後、状態に合わせて意思の確認を家族に行った上で協力病院と連携をとっている。	重度化、看取り対応は、家族への説明、意思確認を利用者の状況を見ながら進めている。これまで6件の看取りを経験しているが、職員は、医療機関との連携の基に、実施記録を積み重ね、研修も受講し、自信を持って対応出来るようになってきている。今後とも、看取りの要望には、極力対応していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応についての学習会を開き、その都度、研鑽を積んでいる。対応の仕方、連絡方法、救急車を呼ぶ等のマニュアルができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者を含め、自衛消防訓練を全職員参加し実施している。管理権限者、防火管理者、消防士を交え訓練、実施指導。又、適宜、防災グッズや非常食の補給、点検を行っている。地域の消防隊との協力体制も確立されている。	防災訓練は、全員参加で、年2回、消防署の協力を得て実施している。また、夜間想定訓練も行っている。町内会の婦人消防隊に参加協力をいただいている。避難誘導路として車イス用のスロープがあるが、接続する道路面が砂利で未整備な状態なので、避難誘導が難しい面がある。	災害時の避難誘導路として戸外に通じるコンクリートのスロープがあるが、接続する道路面が砂利で未整備な状態なので、車イス利用者が安全で迅速に避難できるよう、その路面の整備について、今後、検討いただくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の人格を尊重し、年長者として敬い、それを支援の姿勢や言葉かけに反映させプライバシーに配慮するよう常に心がけている。	利用者一人ひとりを人生の先輩・年長者として敬い、誇りやプライバシーを大切に対応している。具体的には、否定的な言葉は使わない、トイレや入浴時にはカーテンを引くなど羞恥心等への配慮も心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の見守り支援の中から本人の思いや希望を察知し、その情報を職員間で共有している。できる限りの自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にするために個々に合った支援について話し合い、理解、認識を深めて支援・対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみ、おしゃれには気を配り、散髪は定期的に行い、外出時にはできるだけ本人の好みの服で出かける等の支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意の分野で調理に参加できるよう、畑の収穫から、野菜の刻み、味付け、おやつ作り、配膳、後片付け等、各人の好みや能力に応じた活動を提供している。主食も一律にせず、米飯、粥、麺と柔軟に対応している。又、季節に合わせた行事食も提供している。	食事は、準備から後片付けまで利用者の出来る範囲で参加いただいている。利用者と職員が「いただきます」と唱和し、一緒に談笑しながら、楽しく食べており、食後はどうだったと評価し合っていた。利用者の症状に合わせてお粥等を準備したり、季節食や行事食等柔軟に提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給を十分にするため、水分チェック表を利用したり、一人一人の好みによって、飲み物の種類を変えたり、嚥下の状態により、とろみをつけたりしている。又、月毎の体重変化を見逃さず、食事や間食の量、献立の中身を個別に変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修を受け、適宜、勉強会を開き、自分でできる方は、声掛けで行っている。介助を要する方には、歯や舌の状態を見ながら介助を行い、記録している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用して定期的なトイレ誘導や排泄サインを見逃さないように排泄の記録をし、トイレ排泄や排泄の自立支援を行っている。	利用者ごとに水分補給・排泄チェック表を毎日記録し、排泄のリズムを把握、尿意のしぐさを見逃さないようにしたり、十分な時間をかける等トイレ誘導している。その結果、リハビリパンツから布パンツに転換出来た改善事例も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給、運動、食事の工夫をしている。排便の記録を毎日行い必要な場合には、下剤、摘便をしているが、自力排便の為、繊維の多い食品の摂取に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望を聴いている(家族)脱衣所との温度差を最小限にし体の変化に注意している。プライバシーを尊重し可能な限り最小の介助としている。事故防止のため、利用者に合わせて、2人介助、3人介助を実施している。	利用者の希望とバイタルチェックを見ながら、一日おき、もしくは週2回で入浴している。介助は、普通は1人だが、車イス利用者は2人で行なっているが、必ずしも同性介助ではなく、異性を希望する利用者もいる。楽しく入浴するため、音楽をかける方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常生活リズムを作り、心身の安定を図り、良眠できる様に援助している。(散歩、カラオケ、体操等)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ダブルチェックで薬の管理を行い、一回ごとに渡し、内服を確認している。一人一人が飲んでいる薬の効果、副作用、用量等、一覧にして掲示し、その都度、確認しながら服薬漏れがないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人が何をしたいのか、できるのか理解し喜んで生活できるように取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、畑、外食等、状態に合わせて数回にわたり外出している。花巻まつりには席を予約してゆっくり楽しめるようにしている。又、近隣の保育所の運動会にも参加している。	外出は、天気がいい時には周囲の畑等を散歩したり、ドライブでお花見や白鳥見物、更には花巻まつり等に出掛けている。特に、年1回、市内のホテルの協力で忘年の昼食会を全員参加で行っており、利用者にとっては、普段味わえない機会非常に楽しみなものとなっており、今後とも継続していきたいとしている。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームだんけ胡四王

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出、外食の際に現金を渡し(1,000円程度)買い物や支払を実感して満足感を味わう。(ショッピングモールでの買い物、飲食等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの贈り物があった場合等は、電話で直接家族と話をしてもらう。利用者が描いた絵手紙を家族に出す等して、返事をもらって絆を深めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間のリビングの音、光、色、広さ、温度に気を配りテーブルの配置を考えて、大人数で、少人数で楽しく過ごせるように工夫している。	建物内部は木質基調で全体的に温かみを感じられる。居間兼食堂は、天井が高く天窓があり、明るく、食卓テーブル、薪ストーブ、大型テレビ等が置かれており、利用者が皆で集い、楽しく過ごせる共用空間となっている。廊下、壁には行事予定表や行事の写真、カレンダー等が貼ってあり、生活感、季節感も感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置、椅子の並べ方等を工夫し、独りでも友達同士でも好きなように過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や好みの物等は、入居当初から、あるいは必要になった時に持ち込んで心地の良い居室となるように配慮している。	居室は、広めでゆったりタイプであり、ベット、寝具、収納等が備え付けられている。利用者は、小筆筒等、使い慣れたものや、好みの写真、作品等を持ち込んでいる。今年の夏は暑かったことから、エアコンの要望があり、全室に設置した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名札、トイレの場所等、分かりやすい表示を取り入れ、手すり、つかまり棒等、工夫して設置し自立した生活への配慮を心掛けている。		